

研修カリキュラム表

事業所名：社会福祉法人常陽会

平成 30年度

科目の内容等				評価方法
科目の細目	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
1 職務の理解（6時間）				
多様なサービスの理解	3		視聴覚教材を用い、介護保険の各サービス、保険外サービスの概要を講義形式で説明する。また、介護職員初任者研修をおとした到達目標、資格取得後について説明したうえで、感じた事を受講生より発表させる。	評価なし
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		視聴覚教材を用い、各サービス事業所・介護保健施設の仕事内容の紹介を行う。また、働く現場について具体的事例を示し説明したうえで、現場や仕事内容について感じたことを受講生より発表させる。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）				
人権と尊厳を支える介護	5	2-②	通信と通学にて研修を行う。 人権及び尊厳についての基本的な考え方、人権を守るための各制度について説明した後、事例に基づく討議を行う。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
自立に向けた介護	4	2-①	通信と通学にて研修を行う。 自立支援及び介護予防の考え方について、具体的な事例を複数示し、自立という概念に対する気付きを説明する。また、気付きについてグループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答およびレポートを提出させる。	
3 介護の基本（6時間）				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	3-①、3-②	通信と通学にて研修を行う。 介護サービスの違い、介護職としての基本的な役割、専門性、医療・看護との連携について具体的な事例を示し、説明する。また、講義内容についてグループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護職の職業倫理	2	3-③	利用者や家族と関わる責任、社会に対する責任を具体的な事例を示し、説明する。また、講義内容についてグループディスカッションを行う。	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	3-④	通信にて研修を行う。生活支援の場では典型的な事故、安全の確保、事故予防、対策についての設問を解き、解答を提出させる。	
介護職の安全	1	3-⑤	通信にて研修を行う。介護職の健康管理の設問について、レポートを提出させる。	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）				
介護保険制度	5	4-①、4-②、4-③	通信と通学にて研修を行う。介護保険制度が創設された背景及び目的、基本的な仕組み、財源について説明した後、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医療との連携とリハビリテーション	2	4-⑤	通信にて研修を行う。医療との連携の必要性、リハビリテーションの理念と目的の設問について、レポートを提出させる。	
障害者自立支援制度およびその他制度	2	4-②、4-④	通信と通学にて研修を行う。障害者福祉制度の理念及び基本的なしくみ、個人の権利を守る制度について、説明後、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、レポートを提出させる。	
5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）				
介護におけるコミュニケーション	3	5-①、5-②、5-③	通信と通学にて研修を行う。共感、受容、傾聴的態度、気づきなど基本的なコミュニケーションのポイントについて説明したうえで、ロールプレイング形式にて実践してもらう。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護におけるチームのコミュニケーション	3	5-④	通信と通学にて研修を行う。介護における記録の意義・目的、報告・連絡・相談の留意点を説明したうえで、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答およびレポートを提出させる。	

6 老化の理解 (6時間)				
老化に伴うところとからだの変化と日常	3	6-①	通信と通学にて研修を行う。加齢、老化に伴う心身の変化の特徴、日常生活への影響について具体的事例を示し、説明したうえで、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
高齢者の健康	3	6-②	通信と通学にて研修を行う。高齢者に多い疾病や日常生活上の留意点について具体的事例を示し、説明したうえで、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答およびレポートを提出させる。	
7 認知症の理解 (6時間)				
認知症を取り巻く状況	1	7-①	認知症ケアの理念、考え方について、具体的事例を示し、説明したうえで、グループディスカッションを行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	7-②、7-⑤	通信と通学にて研修を行う。認知症による記憶障害と、健康な高齢者によるもの忘れの違い、認知症の病態、健康管理について、具体的事例を示し、説明したうえで、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	
認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2	7-③、7-④、7-⑥、7-⑦	通信と通学にて研修を行う。認知症の心理症状・行動の基本的特性と、コミュニケーションのとり方について、具体的事例を示し、説明したうえで、グループディスカッションを行う。通信においては設問を解き、解答を提出させる。	
家族への支援	1	7-⑧	通信にて研修を行う。家族の気持ち、受けやすいストレス、心理の段階についての設問のレポートを提出させる。	
8 障害の理解 (3時間)				
障害の基礎的理解	1	8-①	障害の概念と基本理念について、説明したうえで、グループディスカッションを行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	8-①	通信にて研修を行う。各障害の内容、特徴、及び障害に応じた社会支援の考え方、難病について、設問へのレポートを提出させる。	
家族心理、かかわり支援の理解	1	8-②	障害の理解、受容支援について、具体的事例を示し、説明したうえで、グループディスカッションを行う。	

9 ころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)				
■ 基本知識の学習 12時間				
介護の基本的な考え方	4	9-②	通信にて研修を行う。理論と法的根拠に基づく介護、及び介護技術の構造、介護予防について、課題への解答、及びレポートを提出させる。	次の①および②により評価を行う。 ①基本知識の学習について小テストを行う。当事業所の合格水準を満たさなかった者は、自主学習のうえ、再度小テストを行うこととする。(当事業所の合格水準を満たすまで実施) ②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護に関するころのしくみの基礎的理解	4	9-④	通信にて研修を行う。からだの状態がころに与える影響、ころの持ち方が行動に与える影響、感情と意欲の基礎知識について、課題への解答、及びレポートを提出させる。	
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	9-⑤	通信にて研修を行う。人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識について、課題への解答、及びレポートを提出させる。	
■ 生活支援技術の学習 51時間				
生活と家事	6	9-①、9-⑥	1時間は家事援助の必要性と目的、基礎知識と生活支援について、具体的事例を示し講義形式で説明する。残り1時間で、道具を用いた実技演習を行う。4時間は施設実習にて、要介護者、家族介護者への援助を実践で学び、ワークシートへ記入し、提出させる。	次の①及び②により評価を行う。 ①介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。 ②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において知識の理解度に係る評価を行う。
快適な居住環境整備と介護	3	9-③	1時間は身体の状態に合わせた住環境整備の基礎知識、及び福祉用具について、具体的事例、視聴覚教材を使用して講義形式にて説明する。残り2時間で実技演習を行う。(実技演習はあらかじめ講師が示す内容にもとづいて実施) 福祉用具の展示も行う。	
整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑦	3時間は介護技術に関する講義を視聴覚教材を用いて行い、残り3時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す内容にもとづいて実施)	
移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	9-⑧	6時間は介護技術に関する講義を視聴覚教材を用いて行い、残り6時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す内容にもとづいて実施)	
食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑨	3時間は介護技術に関する講義を視聴覚教材を用いて行い、残り3時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す内容にもとづいて実施)	
入浴、清潔保持関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑩	3時間は介護技術に関する講義を視聴覚教材を用いて行い、残り3時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す内容にもとづいて実施)	
排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑪	3時間は介護技術に関する講義を視聴覚教材を用いて行い、残り3時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す内容にもとづいて実施)	
睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	9-⑫	1.5時間は介護技術に関する講義を行い、残り2.5時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す事例にもとづいて実施)	
死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	2	9-⑬	終末期に関する基礎知識と対応の仕方について、講義形式で説明する。講義内容について、感じたことを受講生より発表させる。	
■ 生活支援技術演習 12時間				
介護過程の基礎的理解	4	9-①、9-②	介護過程の目的と意義について説明を行い、具体的事例についてグループディスカッションを行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
総合生活支援技術演習	8	9-②、9-⑦、9-⑧、9-⑨、9-⑩、9-⑪、9-⑫	施設実習にて、要介護者、家族介護者への援助を実践で学び、ワークシートへ記入し、提出させる。	介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。
10 振り返り (4時間)				
振り返り	2		テキストを用い、これまで学習してきた内容を振り返り、グループディスカッションを行う。また、継続的な学習方法について説明する。	評価なし
就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2		当法人の説明会を行い、具体的な施設での仕事内容の説明、現場職員の体験談を紹介する。	
合 計	130 時間 (うち通信学習 37時間)			